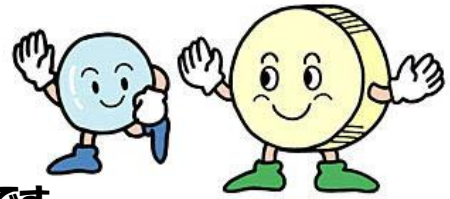


薬物療法



薬物療法の位置づけ

運動・食事・行動療法をきちんと続けることが基本です。

それでも改善が見られない場合、薬物療法を開始を検討します。

※薬物療法はあくまでも肥満治療において補助的な立ち位置にある治療です。
他の治療に合わせて行うことが原則となります。

治療に使用する薬物

高度肥満症に対しては**食欲抑制剤**が保険適応となっています。

その他には、漢方薬等が用いられることがあります。

食欲抑制剤とは

食欲調節中枢などに作用し摂食抑制作用、消化吸収抑制作用、消費エネルギー促進作用などをあらわし、肥満症を改善するお薬です。

食欲抑制剤は通常、食事療法及び運動療法の効果が不十分な高度肥満症で使用します。

※(注)食欲抑制剤の1回の処方できる期間には3カ月という制限があります。

薬物療法開始タイミングの一例

3～6カ月減量治療を行っても、5～10%の体重減少が見られない場合、または健康障害の改善が得られない場合など

(例)こんなに頑張ってるのに体重が減らない。

これ以上どのように努力すればいいのか・・・

→食欲抑制剤を開始して他の治療と合わせてみる。

薬物療法の詳細については、担当医にご相談ください。

※薬物療法の実施は必ず担当医の指示のもとで行ってください。



減量手術後の薬剤注意点

減量手術によって薬剤の効き方が大きく変わる可能性があります。

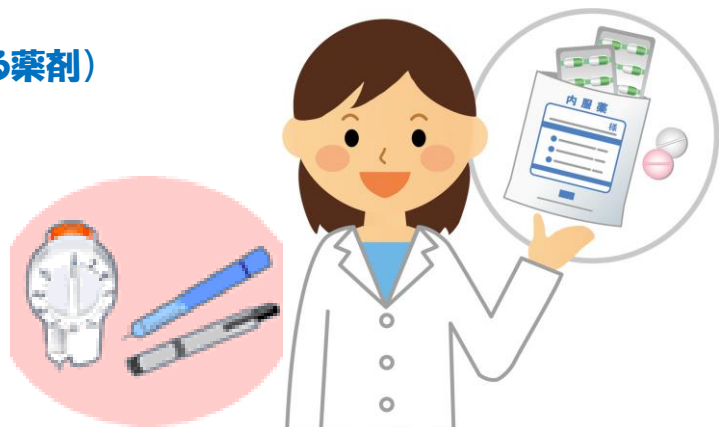
一般的に術前に比べ術後では薬剤が減量もしくは中止される傾向にあります。よって減量手術は服用薬剤数を減らすことにも繋がり、服用の回数や錠数を減らすことで内服管理を簡便にしたり、医療費削減にも繋がります。

しかし、効き方が変化するため術後しばらくは血糖や血圧、そのほかの数値や症状に注意が必要です。

例えば、インスリンや血糖降下薬を服用中の方は術後にインスリン抵抗性が改善され(インスリンの効き方がよくなる)、薬剤が必要でなくなるケースもあります。薬剤の効きすぎによる低血糖症状発現の可能性もあるので注意が必要です。

(主な中止される可能性がある薬剤)

- ① インスリン注射
- ② 血糖降下薬
- ③ 降圧剤
- ④ 脂質異常症治療薬
- ⑤ 精神疾患治療薬
- ⑥ その他



※薬剤は継続が必要なものもありますので中止は自己判断ではせず、必ず医師の指示に従って行ってください。